

茨城空港将来ビジョン

～首都圏第3の空港を目指して～

2025年7月

茨城県

茨城空港将来ビジョン策定の背景と目的

○将来ビジョン策定の背景

- ・ 茨城空港は開港15年を迎え、本県のみならず周辺各県の航空需要に対応し、観光やビジネス等の経済活動、各国姉妹都市との国際交流や人々の生活を支える必要不可欠な空港へと成長
- ・ 2023年10月には、1時間1便以上の着陸を可能とするなど、利便性が大きく向上
- ・ 2024年の県内外国人宿泊者数は、開港から15年で3倍となる過去最大の26万人泊に達し、インバウンド需要が急激に増加

○将来ビジョンの目的

茨城空港を取り巻く状況の変化を踏まえ、茨城空港が本県や周辺各県の地域経済の成長や観光振興、災害時の救援活動を支えることで、更に活力があり、より安心した暮らしを送ることができる地域社会を実現できるよう、茨城空港が今後目指すべき姿・果たすべき役割、それらを実現するために必要な取組を「将来ビジョン」として策定

茨城空港が目指すべき姿、果たすべき役割

- 1 : 本県や近隣県の更なる成長、人々の豊かな生活を支える
国内外との観光・ビジネスや地域の賑わいの拠点となる空港
- 2 : 羽田・成田空港とともに、首都圏第3の空港として、
日本の国際・国内航空需要に対応する空港
- 3 : 本県の被災時や、首都直下地震などの大規模災害時に、
本県をはじめ周辺県の災害対応の拠点となる空港

「目指すべき姿、果たすべき役割」を実現するために必要な取り組み

- (1) 国内外をつなぐ路線ネットワークの
拡大・充実
- (2) 旅客の利便性向上のための環境整備
- (3) まちづくりと茨城空港の連携強化
- (4) 新たな観光・ビジネス需要の創出
- (5) 脱炭素化による持続可能な社会の実現
- (6) 災害時の対応能力の強化

(1) 国内外をつなぐ路線ネットワークの拡大・充実

- 増便及び新規路線誘致のため、茨城県、周辺地域や就航先の積極的なプロモーションを実施し、更なる双方向の交流拡大に取り組む



花絶景～ネモフィラの景観～



年間を通じた魅力的なゴルフ環境



日本を代表する食の産地



水戸黄門まつりでの就航先（神戸）観光をPR

(2) 旅客の利便性向上のための環境整備

- 旅客の利便性向上や航空会社の安全で円滑な運航のため、ソフト・ハード面で空港機能の向上に取り組む



空港ターミナルビルの機能強化
(需要に応じた受入容量の拡大、滞留時間の短縮など)



駐車場の容量拡大などによる利便性向上



取付誘導路の増設による航空機の円滑な移動



増加する航空機に対応する駐機場の確保

(2) 旅客の利便性向上のための環境整備

○ 首都圏、近隣県や観光地と茨城空港の更なるアクセス向上に取り組む



県内、近隣県や東京などと空港を結ぶアクセスバスの充実に取り組む

外国人旅行客向けに多言語対応
アクセス案内の充実

SNS等による交通情報発信を強化

(3) まちづくりとの連携強化

- 茨城空港と地域が共生し、更なる地域振興を図り、ともに成長していくため、茨城空港、小美玉市の新しいまちづくりと空のえき「そ・ら・ら」等の連携を強化し、更なる賑わいを創出



(4) 新たな観光・ビジネス需要の創出

- 首都圏のビジネスジェット需要や、富裕層向けの観光需要等を取り込むため、ビジネスジェットを活用したツアー造成や、受け入れ環境の強化に取り組む



ツアー例：
ビジネスジェットで茨城空港へ到着し、
普段は予約が困難な名門ゴルフ場でプレー

富裕層向け旅行会社や県内外企業と協力しツアーを造成

(5) 脱炭素化による持続可能な社会の実現

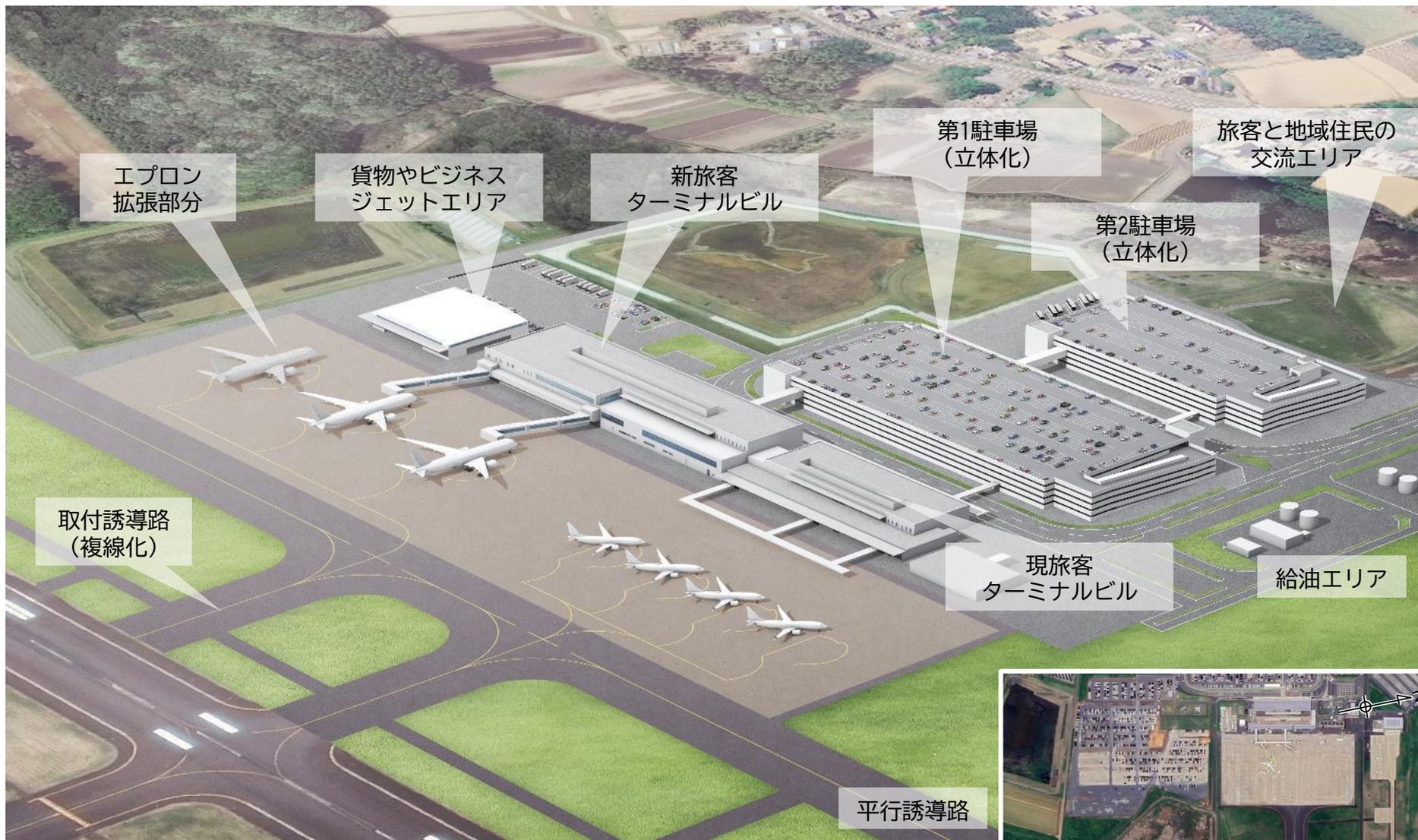


空港建築施設の省エネ化を推進



災害対応の関係者間の密な連携構築や
空港機能の強化

将来の茨城空港イメージ



備考：本配置はイメージであり、具体の整備に当たっては関係者と調整し決定するため、変更が生じる場合がある